
Trial series
T2005 / T2005B / T2005C
(T2005C-DC80)
(T2005C-DC80-R005)
Low Voltage Inverter Unit
Users Manual

Index

1. はじめに.....	3
1.1. はじめに.....	3
1.2. 適用ユーザー.....	3
1.3. 注意事項.....	3
1.4. 警告事項.....	4
2. インバータ概要.....	6
2.1. 特徴.....	6
2.2. インバータブロック図.....	6
2.3. T2005 / T2005B 仕様.....	7
2.4. T2005C-DC80 仕様.....	8
3. 各回路ブロックの注意事項.....	10
3.1. 電流検出回路のオペアンプの選択 (T2005)	10
3.2. 電流検出回路のフィルター	12
3.3. 主回路過電流検出回路.....	13
3.4. 出力電圧検出回路.....	14
3.5. CPU 電圧切り替え方法.....	15
3.6. CPU カードとの接続情報.....	15
3.7. 主回路電圧が 22V 未満の場合・主回路と制御回路とを別電源にする場合	16
4. 外部接続 T2005	18
4.1. FAN power input (AC100V or AC200V).....	18
4.2. Inverter AC output.....	18
4.3. Inverter DC input.....	19
5. 温度上昇データ T2005 / T2005B / T2005C	20
5.1. T2005 温度上昇データ	23
5.2. T2005B 温度上昇データ	20
5.3. T2005C-DC80 温度上昇データ	21
6. T2005, T2005B, T2005C の差異	24
6.1. ゲート回路	24
6.2. 制御電源回路.....	25
7. 発注情報.....	26
7.1. 型番一覧.....	26

1. はじめに

1.1. はじめに

本ユーザーズマニュアルは、T2005 低電圧インバータユニット用です。

このインバータは、永久磁石型同期モータや誘導電動機のモータ制御用に使用することを目的に設計されています。ただし、モータの特性、パラメータ、要求仕様の違いによりモータを駆動できない場合もあります。センサー、電力、電圧、電流範囲などをご確認の上、ご購入していただけるようお願いいたします。

1.2. 適用ユーザー

本インバータは、製品の研究段階や試作段階用のインバータとして設計されています。

1.3. 注意事項

1. この資料に記載されたすべての情報は、本資料発行時点の物であり、予告なく変更することがあります。弊社製品のご購入およびご使用にあたりましては、必ず最新の資料を参照していただけるようお願いいたします。
2. 本資料に記載された弊社製品、技術情報の仕様に関連し発生した第三者の特許権、著作権、その他の知的財産権の侵害に関し、弊社は一切その責任を負いません。弊社は、本資料によって弊社または第三者の特許権、著作権、その他の知的財産権を許諾するものではありません。
3. 弊社製品の複製等を行わないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、インバータ製品の動作例、応用例を説明するための物です。お客様の機器の設計、実験において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの仕様に起因して、お客様または、第三者に生じた損害に関し、弊社は一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替および外国貿易法」その他、輸出関連法令を順守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続きを行ってください。本資料に記載されている弊社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、弊社製品および技術を国内外の法令および規制により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することはできません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すために慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りによる損害がお客様に生じた場合においても、弊社は、一切その責任をおいしません。
7. 本製品は、実験用として設計されています。特に、交通システム（自動車、電車、船舶）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全機器、医療機器、生命維持機器、航空機器、原子力制御機器などに使用なさないようお願いいたします。
8. 本資料に記載された弊社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他、諸条件につきましては、弊社提案範囲内でご使用ください。
9. 弊社は、弊社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、ある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。弊社製品は、耐放射線設計については、行っておりません。弊社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせない様、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全対策およびエージング処理等、機器またはシステムとしての保証をお願いいたします。特にマイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造、実験なされる最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。

9. 本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。

1.4. 警告事項



危険

- ・火災の恐れがあります。

インバータが発火、発煙、異音、その他異常を感じた場合には、インバータをすぐに停止してください。その後、インバータへ接続している電源を遮断し、内部の電解コンデンサに残っているエネルギーがなくなっていることを確認してから、負荷などを外してください。



危険

- ・感電のおそれがあります。

インバータには、通常時でも50V近い高電圧部分があります。運転中はもちろんのこと、運転後でも内部の高圧部に電圧がかかっていることがあります。運転後インバータを破損した場合など、内部に直接さわらないようにしてください。感電により、死亡または、重傷を負う危険があります。



危険

- ・失明のおそれがあります。

本インバータには、ケースがありません。インバータの内部が破裂した場合、内部のコンデンサに含まれる液体、破損した部品などが目に入り、失明する可能性があります。下の写真のような防護用のゴーグルを着用するようにしてください。



注意

- ・やけどのおそれがあります。

本インバータには、運転中、運転後は場合により100℃を超えるような高温になる場合があります。触れる場合には、細心の注意をはらうようにしてください。



注意

- ・ケースの通気口をふさがないようにしてください。

本インバータには、内部を冷却するための通気口がありますが、この通気口をふさぐと冷却能力が減り、インバータ破損、発火の原因となります。



注意

- ・運転中はファンを動作させるようにしてください。

本インバータには、内部を冷却するためのファンがありますが、インバータ運転中にファンを運転しないとインバータの温度が上昇し、インバータ破損、発火の原因となります。



注意

- ・ソフトウェアを作成する場合、過電流、過熱など各種保護ソフトを先に作成してください。

本インバータには、ハードウェア単体でインバータを保護する機構がありません。CPUソフトウェアとCPUの内部機能を利用して保護する設計思想になっています。モータなどを運転するためのアプリケーションソフトを作成する前に、必ず、保護用のソフトウェアを作成するようにしてください。保護が働かない場合、インバータ破損、発火の原因となります。



注意

- ・高温、高湿度などの環境で動作させないでください。

本インバータには、実験用として設計されております。下記のような特別な環境で動作するように設計されていません。本説明書の動作環境からはずれた環境でお使いにならないようにしてください。故障、発火、破損の原因となります。

- ・振動・衝撃などがある環境
- ・腐食性ガス、可燃性ガス、湿度80%以上の環境
- ・高温、低温環境



注意

- ・本製品は、高電圧を取り扱います。高電圧の危険性を認識している方がお使いください。

本製品には、参考用の配線材などが同封されていますが、必ずしも、お客様の用途に合った配線材料とは限りません。かならず用途を確認してお使いください。

配線時には、危険をさけるため、電気を入れない状態で配線してください。

配線時には、濡れた手で扱わないようにしてください。



注意

- ・本製品の定格は、特定条件下で測定されたものです。

お客様がご使用になる入力電圧、出力電圧、出力電流、負荷条件、運転条件、温度環境などにより、扱うことのできる電力容量が大きく変化します。インバータが破損しないよう、温度、電流、電圧などをCPU、もしくは外部のセンサーなどで監視、保護するようにしてください。

2. インバータ概要

2.1. 特徴

本インバータユニットは、特に民生用機器の研究・開発用として設計されたものです。

T2005 の特徴

- ・ 安価な量産用の回路をベースとした非絶縁構成の低電圧大電力インバータです。
標準版は、DC48V カスタム仕様で 80V までを用意しております。
- ・ ルネサスエレクトロニクス社製 CPU を各種選択可能
- ・ 量産を考慮して、CPU の空ピンを自由に使用できる回路構成
- ・ 量産を考慮した CPU 内蔵のハードウェア保護を利用した過電流検出回路に対応（CPU 依存）
- ・ DC バス電圧、3 相出力電流、3 相出力電圧 内蔵
- ・ 最大電力 3kW 3.6kVA@DC48V 入力時（参考データ）
- ・ 実験に便利な、上面透明ケース、冷却 FAN 付

2.2. インバータブロック図

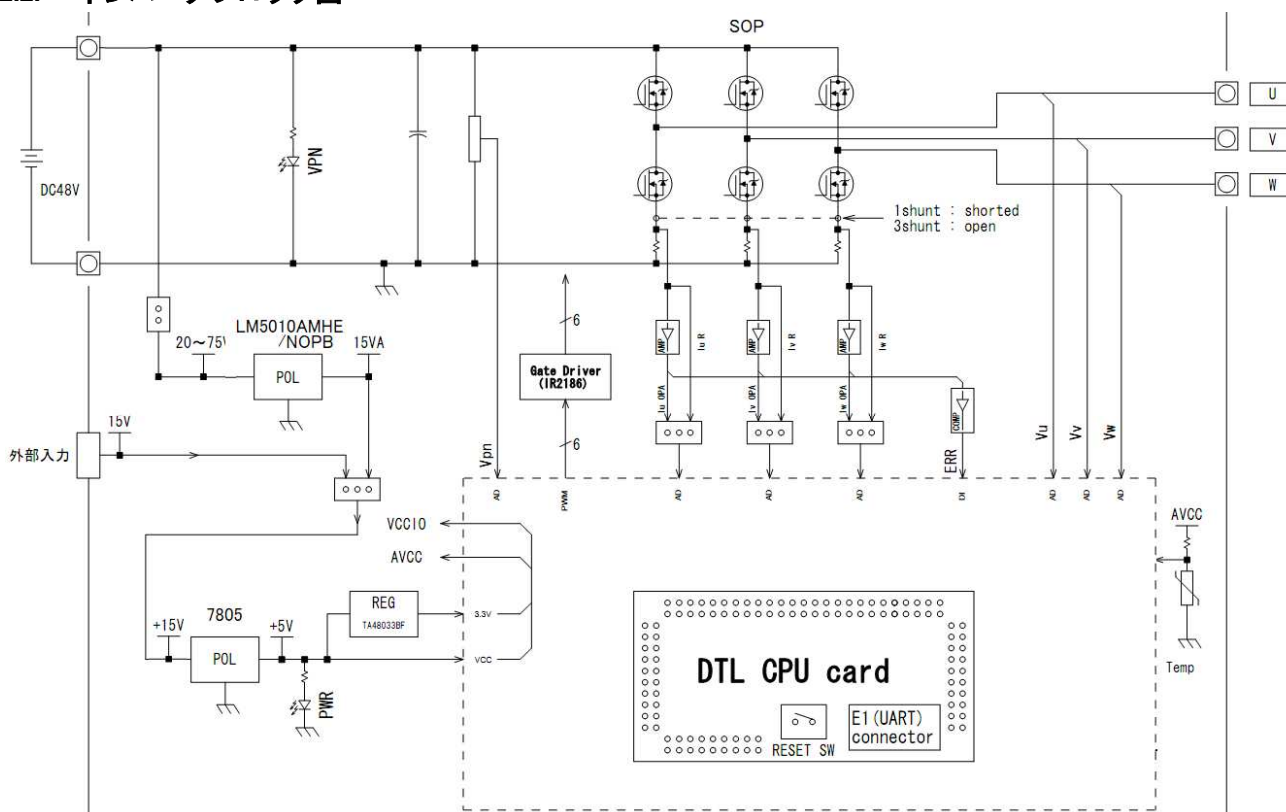


図 2.1. インバータブロック図

2.3. T2005 / T2005B / T2005C インバータ・判別方法

ボード上に T2005~~x~~ P05701-D1-026 Ver.~~y~~.00 と記載があります。

T2005 ならば、 T2005 P05701-D1-026 Ver.1.00

T2005B ならば、 T2005~~B~~ P05701-D1-026 Ver.2.00

T2005C ならば、 T2005~~C~~ P05701-D1-026 Ver.3.00

と記載がありますので、インバータボード上のシルクを参照してください。

2.4. T2005 / T2005B / T2005C 仕様

項目	仕様	備考
使用温度範囲	0℃～35℃	
使用湿度範囲	90%以下(結露しないこと)	
外形寸法	280 x350 x 195 mm	突起物を含まず
重量	3.6kg	
動作入力電圧範囲	DC0V～DC48V	DC 電圧入力 が 24V 以下 の 場合、別途制御電源が必要となります。
最大入力電力	3kW DC48V 入力時	DC24V 入力時は、1.5kW になります。
定格出力電流	AC70A rms AC30V 出力時	スイッチング周波数 15kHz 時
スイッチング周波数	2kHz～20kHz	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
デッドタイム	1.0us	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
電流検出方式	3シャント方式	
シャントレジスタ	1mΩ	
主回路素子	IRFS7730-7PPBF	Infineon
制御電源	主回路電源から生成(非絶縁)	
主回路—制御回路間絶縁	非絶縁	
冷却	AC ファンによる強制空冷	
PFC コントローラ	なし	
DC バス電圧センサー	抵抗分割による検出	
3相出力電流検出	シャント抵抗による電圧検出	
3相出力電圧検出	抵抗分割による検出	
温度センサー	なし	
ICS	なし	

※注意 各種最大値、定格値は、負荷の種類、入力電圧、周囲環境、空冷条件などによって変わることがあります。デスクトップラボでは、これらの定格値・最大値を全ての条件において保証するものではありません。実験環境、負荷環境などに応じて、お客様で保護をかけるようにしてください。

2.5. T2005C-DC80 仕様

項目	仕様	備考
使用温度範囲	0°C～35°C	
使用湿度範囲	90%以下(結露しないこと)	
外形寸法	280 x350 x 195 mm	突起物を含まず
重量	3.6kg	
動作入力電圧範囲	DC0V～DC80V	DC電圧入力が入力が24V以下の場合、別途制御電源が必要となります。
最大入力電力	5kW DC80V 入力時	DC24V 入力時は、1.5kW になります。
定格出力電流	AC70A rms AC30V 出力時	スイッチング周波数 16kHz 時
スイッチング周波数	2kHz～20kHz	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
デッドタイム	1.0us	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
電流検出方式	3シャント方式	
シャントレジスター	1mΩ	
主回路素子	IPB036N12N3	Infineon
制御電源	外部から 15V を供給	外部供給であることに注意！
主回路—制御回路間絶縁	非絶縁	
冷却	AC ファンによる強制空冷	
PFC コントローラ	なし	
DC バス電圧センサー	抵抗分割による検出	
3相出力電流検出	シャント抵抗による電圧検出	
3相出力電圧検出	抵抗分割による検出	
温度センサー	なし	
IOS	なし	

※注意 各種最大値、定格値は、負荷の種類、入力電圧、周囲環境、空冷条件などによって変わることがあります。デスクトップラボでは、これらの定格値・最大値を全ての条件において保証するものではありません。実験環境、負荷環境などに応じて、お客様で保護をかけるようにしてください。

2.6. T2005C-DC80-R005 仕様

項目	仕様	備考
使用温度範囲	0℃～35℃	
使用湿度範囲	90%以下(結露しないこと)	
外形寸法	280 x350 x 195 mm	突起物を含まず
重量	3.6kg	
動作入力電圧範囲	DC0V～DC80V	DC 電圧入力に 24V 以下の場合、別途制御電源が必要となります。
最大入力電力	5kW DC80V 入力時	DC24V 入力時は、1.5kW になります。
定格出力電流	AC70A rms AC30V 出力時	スイッチング周波数 16kHz 時 ※注意:MOSFET の実力としては、AC70Arms を流す実力はある ますが、シャント抵抗の制約により、電流検出レンジの制約がありま す。5V CPU の場合、最大の電流検出レベル±100A 3.3V CPU の場合、最大の電流検出レベル±66A
スイッチング周波数	2kHz～20kHz	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。 ※注意:本モデルでは、電流を制約することにより、40kHz までの 動作を確認しています。
デッドタイム	1.0us	左記のデータは参考です。ソフトウェア、負荷などに依存します。
電流検出方式	3シャント方式	
シャントレジスタ	5mΩ	
主回路素子	IPB036N12N3	Infineon
制御電源	外部から 15V を供給	外部供給であることに注意！
主回路—制御回路間絶縁	非絶縁	
冷却	AC ファンによる強制空冷	
PFC コントローラ	なし	
DC バス電圧センサー	抵抗分割による検出	
3相出力電流検出	シャント抵抗による電圧検出	
3相出力電圧検出	抵抗分割による検出	
温度センサー	なし	
ICS	なし	

※注意 各種最大値、定格値は、負荷の種類、入力電圧、周囲環境、空冷条件などによって変わることがあります。デスクトップラボでは、これらの定格値・最大値を全ての条件において保証するものではありません。実験環境、負荷環境などに応じて、お客様で保護をかけるようにしてください。

3. 各回路ブロックの注意事項

3.1. 電流検出回路のオペアンプの選択

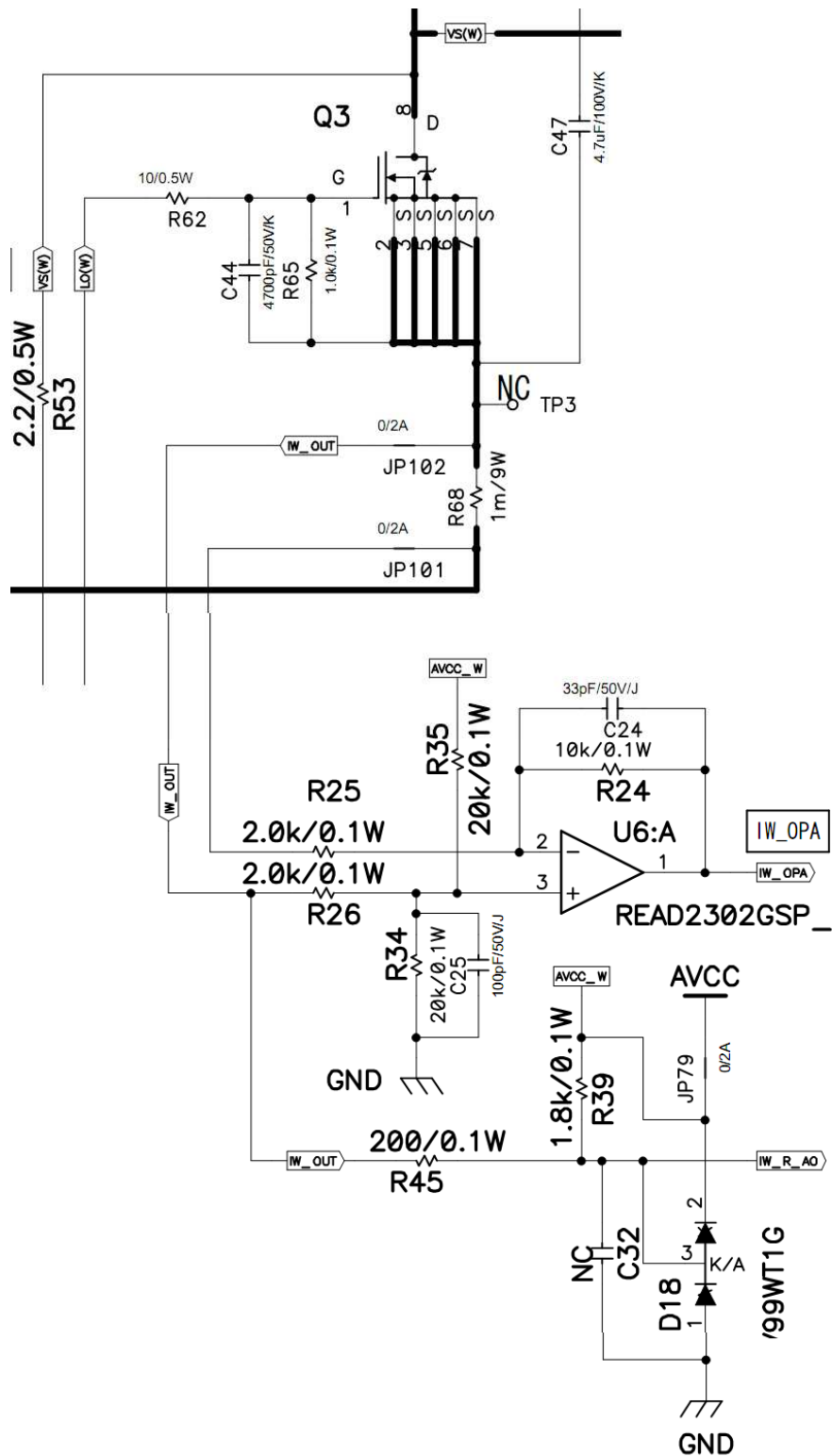
三相電流検出回路の例を、W 相部分を切り出して説明します。他の相も同様です。電流検出回路は、オペアンプを介した出力と、直接出力の2通りの出力があります。2つの出力はジャンパーで選択され、CPU ボードに接続されます。CPU の使用状況に従って、ジャンパーの設定をしてください。

AVcc = 5V 時

T2005 T2005B	T2005C	1-2 Short, 2-3 Open		1-2 Open, 2-3 Short	
		出力	式	出力	式
JP3	JP4	Iu OPAMP 出力選択	$V_{out} = (10 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ R=1mΩ	Iu 直接 出力選択	$V_{out} = (9 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ R=1mΩ
JP11	JP9	Iv OPAMP 出力選択	Iin=500A -> Vout=5V Iin=0A -> Vout=2.5V	Iv 直接 出力選択	At 内蔵 OPAGain=5 Iin=555A->Vout=5V
JP12	JP19	Iw OPAMP 出力選択	Iin=-500A->Vout=0V	Iw 直接 出力選択	Iin=0A->Vout=2.5 V Iin=-555A->Vout=0V

AVcc = 3.3V 時

T2005 T2005B	T2005C	1-2 Short, 2-3 Open		1-2 Open, 2-3 Short	
		出力	式	出力	式
JP3	JP4	Iu OPAMP 出力選択	$V_{out} = (10 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ R=1mΩ	Iu 直接 出力選択	$V_{out} = (9 * R * I_{in} + AV_{cc}) / 2$ R=1mΩ
JP11	JP9	Iv OPAMP 出力選択	Iin=333A -> Vout=3.3V Iin=0A -> Vout=1.65V	Iv 直接 出力選択	At 内蔵 OPAGain=5 Iin=366A->Vout=3.3V
JP12	JP19	Iw OPAMP 出力選択	Iin=-333A->Vout=0V	Iw 直接 出力選択	Iin=0A->Vout=1.65 V Iin=-366A->Vout=0V



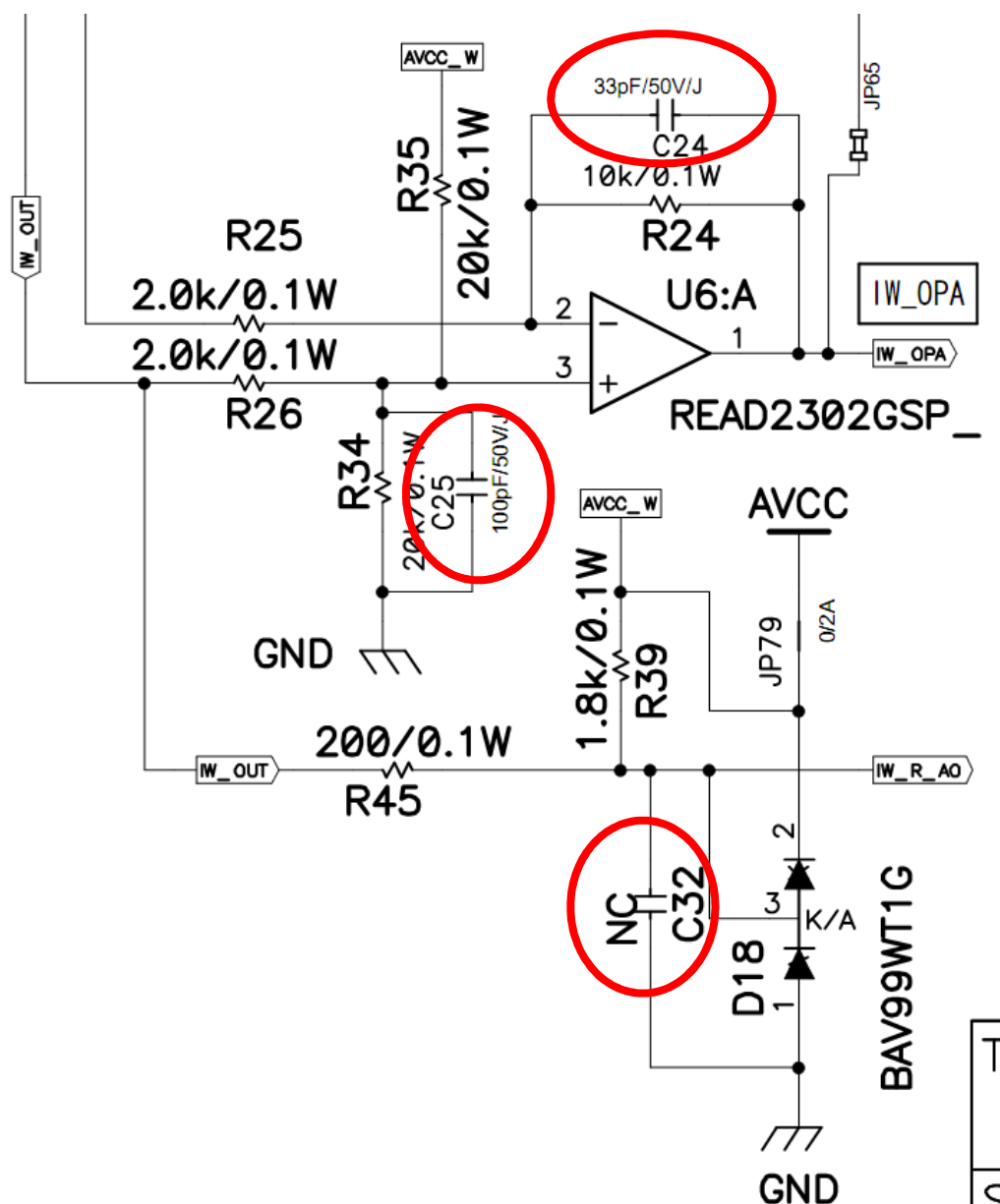
T2005 電流検出部回路図

T2005C も電流検出部の回路は同じですが、部品番号が異なります。

3.2. 電流検出回路のフィルター

電流検出回路のフィルターは、用途や、ノイズ環境、スイッチング周波数、制御方法などにより、変更する必要が発生する可能性があります。本インバータでは下の回路図の W 相部分の様に、フィルターコンデンサ用のパターンが用意されています。実装済みのパターン、非実装のパターンの両方がありますが、用途によって、コンデンサの値を変更、未実装部分に新たに追加するなどを行い、調整をしてください。

CPU ボード上の AD 入力にも CR フィルターが実装されています。この部分も影響するので、注意してください。

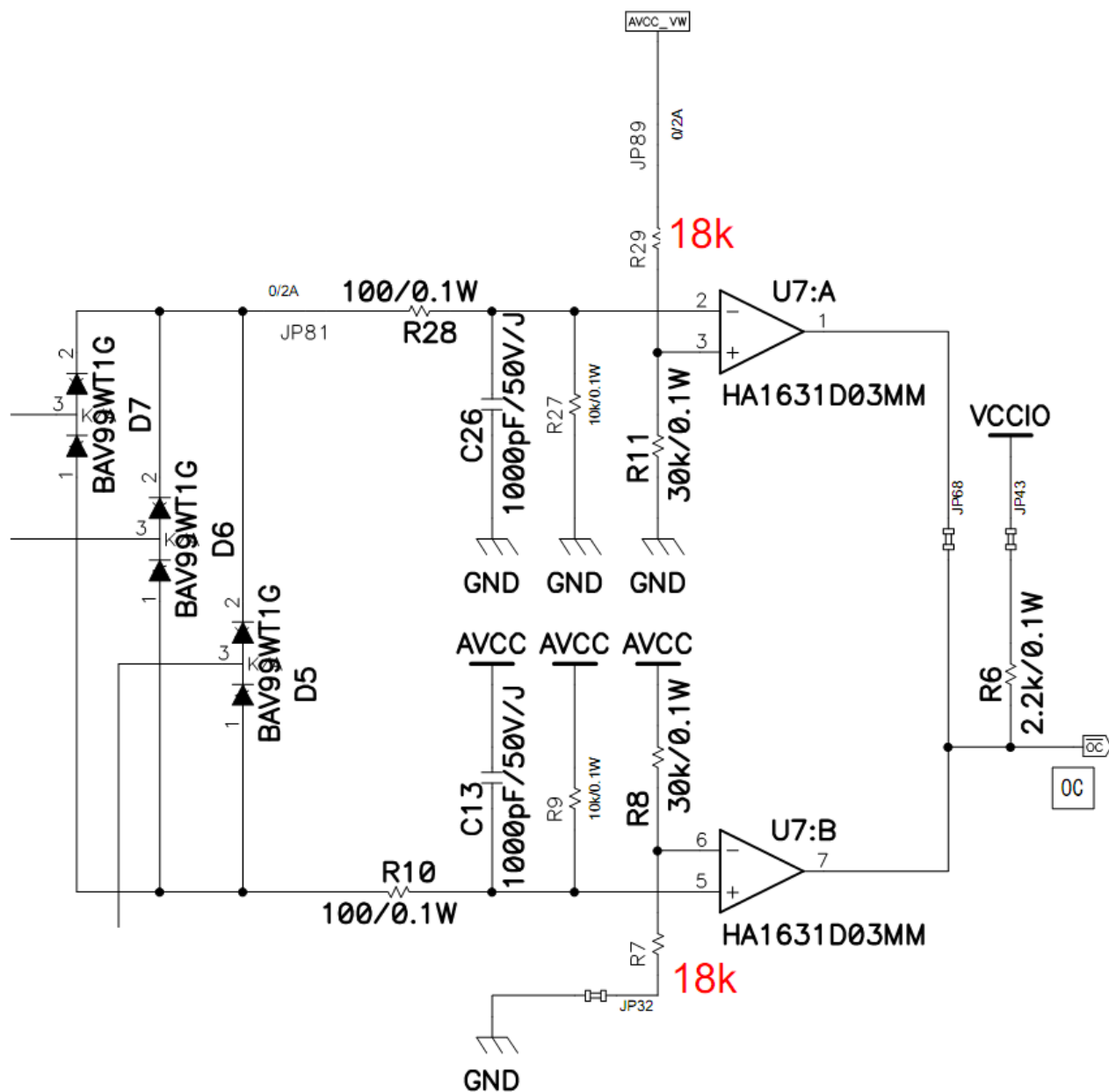


T2005 電流検出部回路図

T2005C も電流検出部の回路は同じですが、部品番号が異なります。

3.3. 主回路過電流検出回路

本インバータでは、主回路の過電流検出回路として、外部にコンパレータ使った回路を採用しています。コンパレータの出力を CPU に入力しています。CPU の/POE や/INT に割り当てられているため、必要に応じて、ゲートブロック処理を行ってください。CPU によっては機能がいないため、ハードウェアブロック機能を使用できない場合があります。



T2005 過電流検出部回路図

T2005C も過電流検出部の回路は同じですが、部品番号が異なります。

3.4. 出力電圧検出回路

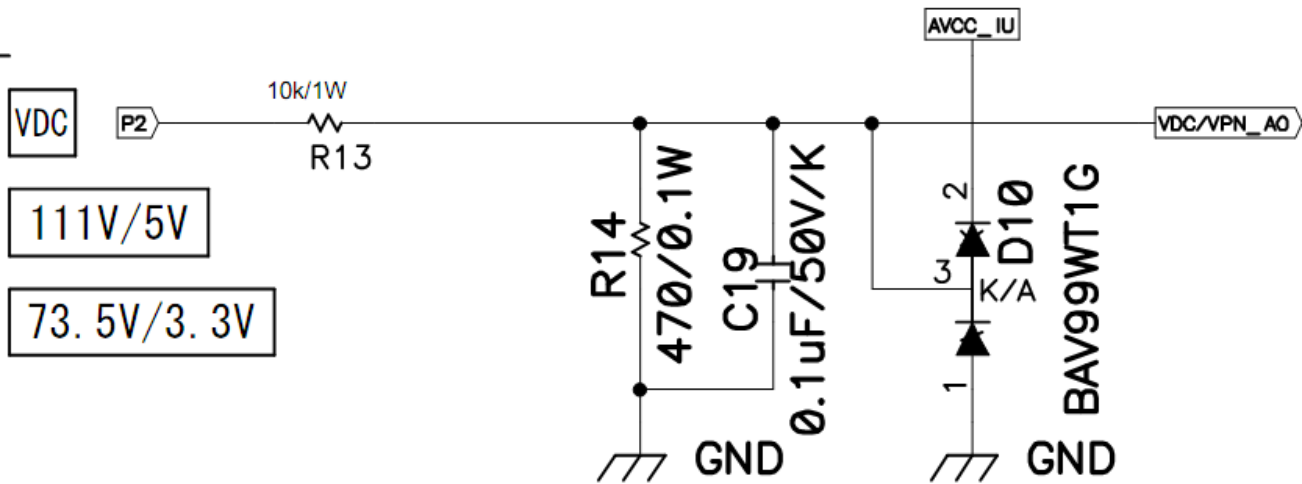
本インバータでは、DC リンク電圧、三相出力電圧の計 4 点の電圧検出回路を持っています。

AVcc = 5V 時

電圧	式
DC link	$V_{out} = \frac{0.47}{10k + 0.47} \times V_{in}$
U phase	
V phase	
W phase	$\begin{aligned} V_{in}=111V &\rightarrow V_{out}=5V \\ V_{in}=0V &\rightarrow V_{out}=0V \end{aligned}$

AVcc = 3.3V 時

電圧	式
DC link	$V_{out} = \frac{0.47}{10k + 0.47} \times V_{in}$
U phase	
V phase	
W phase	$\begin{aligned} V_{in}=73.5V &\rightarrow V_{out}=3.3V \\ V_{in}=0V &\rightarrow V_{out}=0V \end{aligned}$



T2005 電圧検出部回路図
T2005C も電圧検出部の回路は同じですが、部品番号が異なります。

3.5. CPU 電圧切り替え方法

CPU には、3.3V, 5V の物がありますが、本インバータは、CPU の種類に応じてインバータボードの制御用電圧 AV_{cc} , V_{io} を自動的に切り替える機構が組み込まれています。従って、インバータボード、CPU ボードの双方に設定の必要はありません。

※切り替え方法、

インバータ側の、AD のオフセット電圧を決める AV_{cc} 、デジタル I/O の動作電圧を決める V_{io} は、CPU ボードより供給しています。つまり、5V 版の CPU ボードは、 $AV_{cc} = 5V$, $V_{io} = 5V$ を供給し、3.3V 版の CPU ボードは、 $AV_{cc} = 3.3V$, $V_{io} = 3.3V$ を供給するようにすることでインバータとの対応を行っています。ただし、今後の CPU については、これ以外の組み合わせで対応する可能性もあります。

3.6. CPU カードとの接続情報

本インバータは、DTL 製標準 CPU カード仕様に準拠した仕様になっています。以下に CPU カードとのピン対応表を示します。

CN-A Digital	Direction	STD Inverter	T5201 RX62T 100pin *1	T5205 RX23T	T5101 RL78/G14 64pin	T5301 RX111 64pin	T5102 RL78/F14 80pin	T5103 RL78/G1F	T5104 RL78G1G
1	To INV	-	PA2	P00	P52	P32	P44	P141	P60
2	To INV	-	PA3	P01	P53	PB0	P47	P140	P61
3	To INV	PFC_G1	PD0	P31	P54	PA1	P41	P04	-
4	To INV	VRL	PB3	PB4	P55	PA0	P42	P55	-
5	To CPU	/FO	P70	P70	P137	PB5	P137	P137	P137
6	To CPU	-							
7	To INV	WN	P76	P76	P10	P55	P30	P10	P10
8	To INV	VN	P75	P75	P11	PB1	P16	P11	P11
9	To INV	UN	P74	P74	P14	PB6	P120	P14	P14
10	To INV	WP	P73	P73	P12	P54	P17	P12	P12
11	To INV	VP	P72	P72	P13	PB3	P15	P13	P13
12	To INV	UP	P71	P71	P15	PB7	P125	P15	P15
13	To CPU		P91	P91	P05	P35	P46	P05	P70
14	To CPU		P92	P92	P06	P31	P45	P06	P17
15	To CPU	5V	5V	5V	5V	5V	5V	5V	5V
16	To CPU	5V	5V	5V	5V	5V	5V	5V	5V
17	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND
18	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND
19	To CPU	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V
20	To CPU	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V	3.3V

CN-B Analog	Direction	STD Inverter	T5201 RX62T 100pin *1	T5105 RX23T	T5101 RL78/G14 64pin	T5301 RX111 64pin	T5102 RL78/F14 80pin	T5103 RL78/G1F 64pin	T5104 RL78G1G 32pin
1	To INV	AVCC	5V	5V	5V	3.3V	5V	5V	5V
2	To INV	AVCC	5V	5V	5V	3.3V	5V	5V	5V
3	To CPU	-							
4	To CPU	-							
5	To CPU	IU	ANI 000	AN000	ANI 0	ANI 0	ANI 2	ANI2	ANI0
6	To CPU	IV	ANI 001	AN001		ANI 1	ANI 4	-	ANI1
7	To CPU	IW	ANI 002	AN002	ANI 1	ANI 2	ANI 3	ANI3	ANI2
8	To CPU	VPN	ANI 003	AN003	ANI 2	ANI 3	ANI 8	ANI4	ANI3
9	To CPU	TEMP (Vot)	ANI 0	AN007	ANI 7	ANI 4	ANI 10	ANI7	-
10	To CPU	VU	ANI 101	AN004	ANI 3	ANI 6	ANI 5	ANI16	ANI17
11	To CPU	VV	ANI 102	AN005	ANI 4	ANI 8	ANI 6	ANI0	ANI18
12	To CPU	VW	ANI 103	AN006	ANI 5	ANI 11	ANI 7	ANI1	ANI19
13	To CPU	(VAC)	ANI 1	AN016	r ANI 16	ANI 12	ANI 9	ANI5	-
14	To CPU	(IPFC)	ANI 100	(AN017)	r ANI 17	ANI 13	ANI 13	ANI18	-
15	To CPU	(VR1)	ANI 2	AN017	ANI 6	ANI 14	ANI 11	ANI6	ANI10
16	To CPU	(RSV)	ANI 3	-	ANI 19	ANI 15	ANI 12	ANI17 (Yin)	-
17	To INV	VCCIO	5V	5V	5V	3.3V	5V	5V	5V
18	To INV	VCCIO	5V	5V	5V	3.3V	5V	5V	5V
19	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND
20	To CPU	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND	GND

※注意 1

T5201 RX62T 100pin は、本インバータのフル機能をサポートしますが、ルネサスエレクトロニクス製の RSSK キットと AD のピン割り当てなど一部が異なります。RSSK キットと類似の AD ピン割り当てを希望する場合には、注意してください。

3.7. 主回路電圧が 22V 未満の場合・主回路と制御回路とを別電源にする場合

本インバータは、制御電源を主回路から生成する構成をとっています。しかしながら、主回路が 22V 未満の場合、制御電源を生成することができません。そこで、主回路の電圧により、制御電源の供給方法を切り替えます。**(※注意 -DC80 モデルの場合は、常に主回路と制御回路とを外部電源にする必要があります。)**

A) 主回路と制御回路とを別電源にする場合

A-1) T2005 / T2005B の場合

- 1) JP85 解放に変更する。
- 2) CN1 の 1 ピンに 電源の+15V, 3 ピンに電源の GND を接続する。
- 3) JP4 を 1－2 短絡に設定する

同様に、制御回路の電源を主回路と別にしたい場合にも上記の方法を使います。

A-2) T2005C の場合

- 1) JP83 解放に変更する。
- 2) CN1 の 1 ピンに 電源の+15V, 3 ピンに電源の GND を接続する。
- 3) JP2 を 1－2 短絡に設定する

同様に、制御回路の電源を主回路と別にしたい場合にも上記の方法を使います。

B) 制御回路を主回路から生成する場合

B-1) T2005 / T2005B の場合

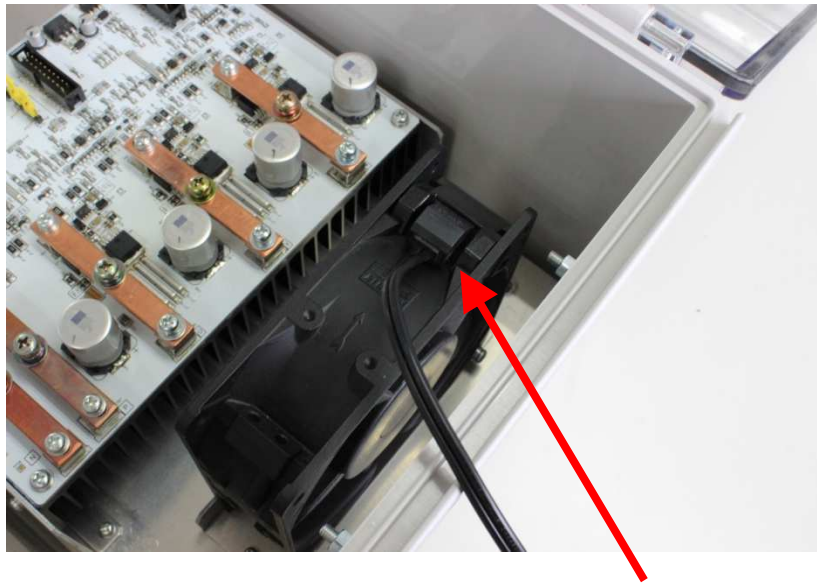
- 1) JP85 を短絡する（出荷時デフォルト）
- 2) CN1 のコネクタを解放する。
- 3) JP4 を 2－3 短絡に設定する（出荷時デフォルト）

B-2) T2005C の場合

- 1) JP83 を短絡する（出荷時デフォルト）
- 2) CN1 のコネクタを解放する。
- 3) JP2 を 2－3 短絡に設定する（出荷時デフォルト）

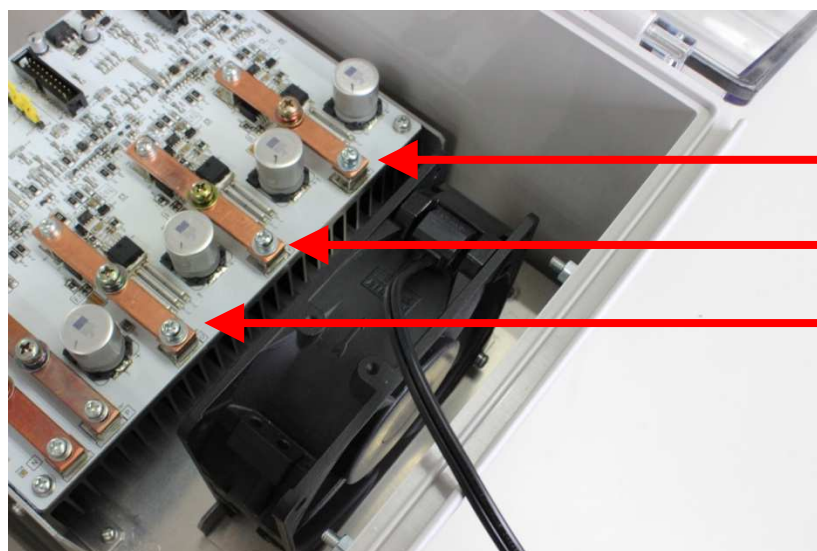
4. 外部接続 T2005

4.1. FAN power input (AC100V or AC200V)



Connect AC100 / AC200V depending on the model

4.2. Inverter AC output

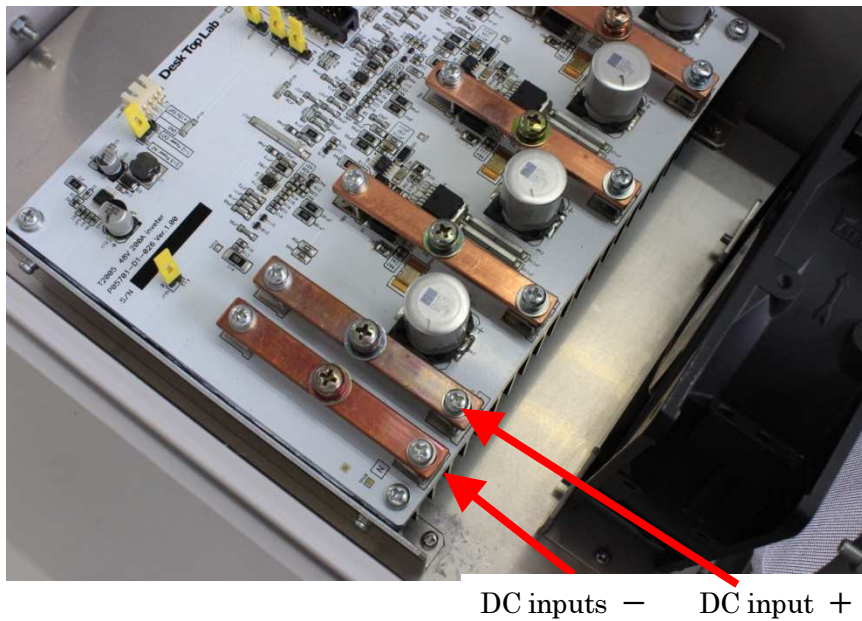


W phase output

V phase output

U phase output

4.3. Inverter DC input



5. 温度上昇データ T2005 / T2005B / T2005C

5.1. T2005B 温度上昇データ

LR 負荷で電流を流した時の温度上昇データの例を示します。

また、負荷の種類、抵抗、インダクタンスなどにより、スイッチング周波数、制御方法、スイッチングパターンなどにより、大きく状況が変化することがあります。

条件：

T2005B inverter + RX62T 100pin CPU card

負荷 3相 LR 負荷

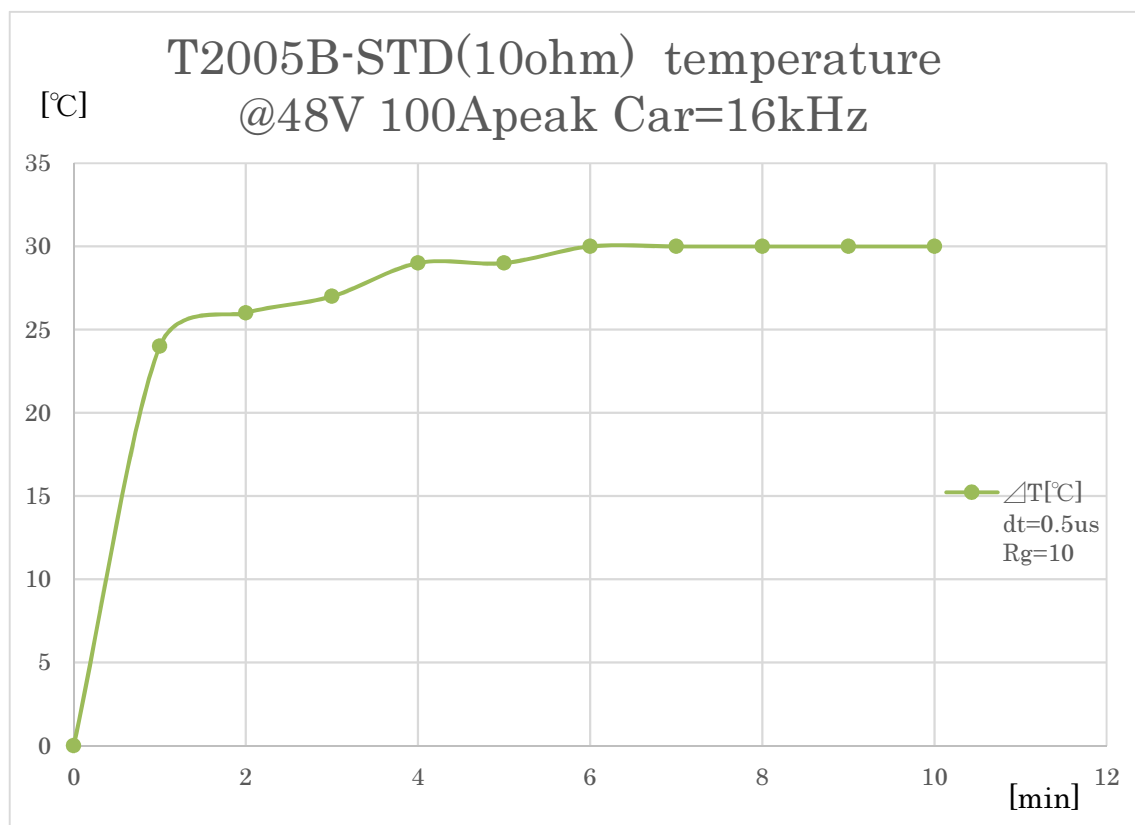
入力電圧 DC48V

キャリア周波数 16kHz

デッドタイム 0.5us

FAN ON

出力電流 正弦波 100A [0-peak]



5.2. T2005C-DC80 温度上昇データ 1

LR 負荷で電流を流した時の温度上昇データの例を示します。

また、負荷の種類、抵抗、インダクタンスなどにより、スイッチング周波数、制御方法、スイッチングパターンなどにより、大きく状況が変化することがあります。

条件：

T2005C inverter + RX62T 100pin CPU card

負荷 3相 LR 負荷

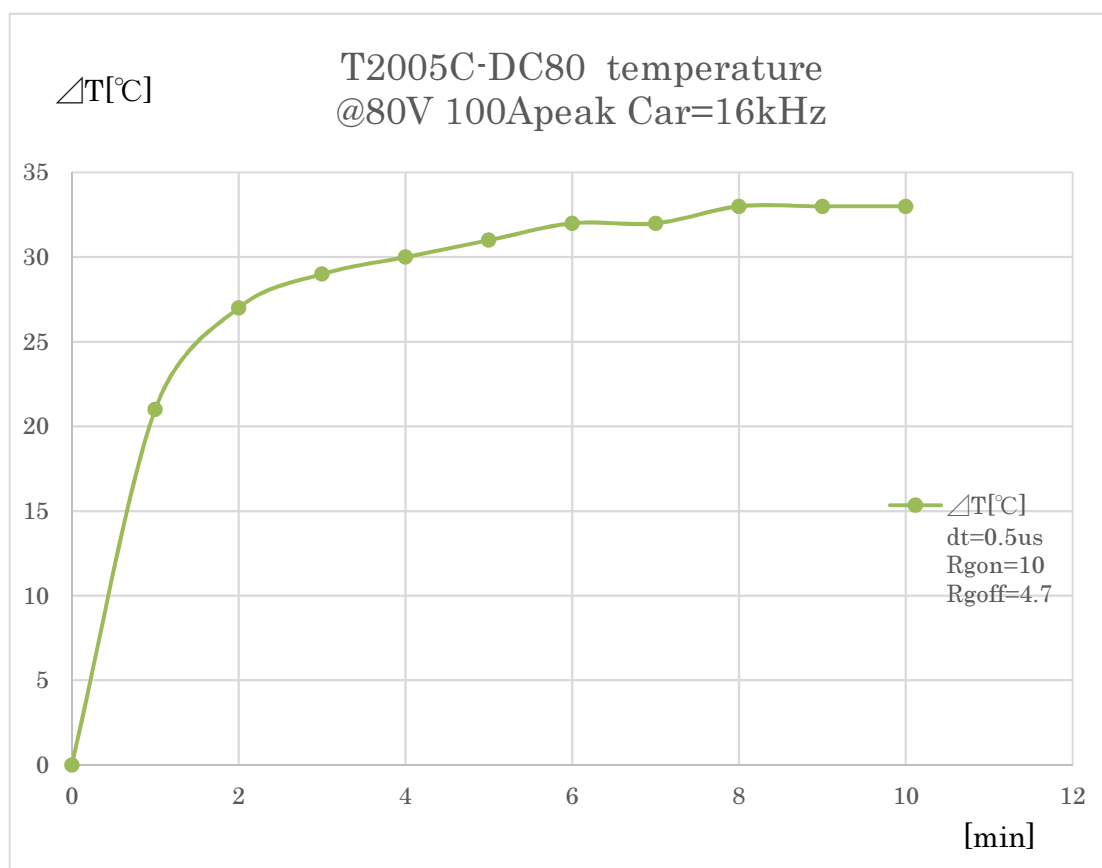
入力電圧 DC80V

キャリア周波数 16kHz

デッドタイム 0.5us

FAN ON

出力電流 正弦波、100A [0-peak]



5.3. T2005C-DC80 温度上昇データ 2 (参考)

T2005C-DC80 において、高スイッチング周波数における参考評価を行っています。
このケースでは、電流のディレーティングを行い、高スイッチング周波数化をした場合の温度上昇を評価しました。

この実験はあくまでも参考データです。負荷や制御内容によって、発熱量がかわることがあります。

○試験条件

- ・デッドタイム 1 μ s
- ・相電流 70A peak
- ・DC 電圧 48V
- ・負荷 インダクター
- ・冷却 標準の AC FAN
- ・電流波形 正弦波

A) キャリア周波数	10kHz	48V	2.6A input	14°C上昇 (安定時)
B) キャリア周波数	15kHz	48V	2.7A input	16°C上昇 (安定時)
C) キャリア周波数	20kHz	48V	2.8A input	18°C上昇 (安定時)
D) キャリア周波数	25kHz	48V	2.9A input	19°C上昇 (安定時)
E) キャリア周波数	30kHz	48V	3.0A input	20°C上昇 (安定時)
F) キャリア周波数	40kHz	48V	3.1A input	24°C上昇 (安定時)

※参考： 温度は、3分でほぼ定常温度に近くなり、5分で変化がなくなります。

5.4. T2005 温度上昇データ (旧モデルデータ)

LR 負荷で電流を流した時の温度上昇データの例を示します。

また、負荷の種類、抵抗、インダクタンスなどにより、スイッチング周波数、制御方法、スイッチングパターンなどにより、大きく状況が変化することがあります。

条件：

T2005 inverter + RX62T 100pin CPU card

負荷 3相 LR 負荷

入力電圧 DC48V

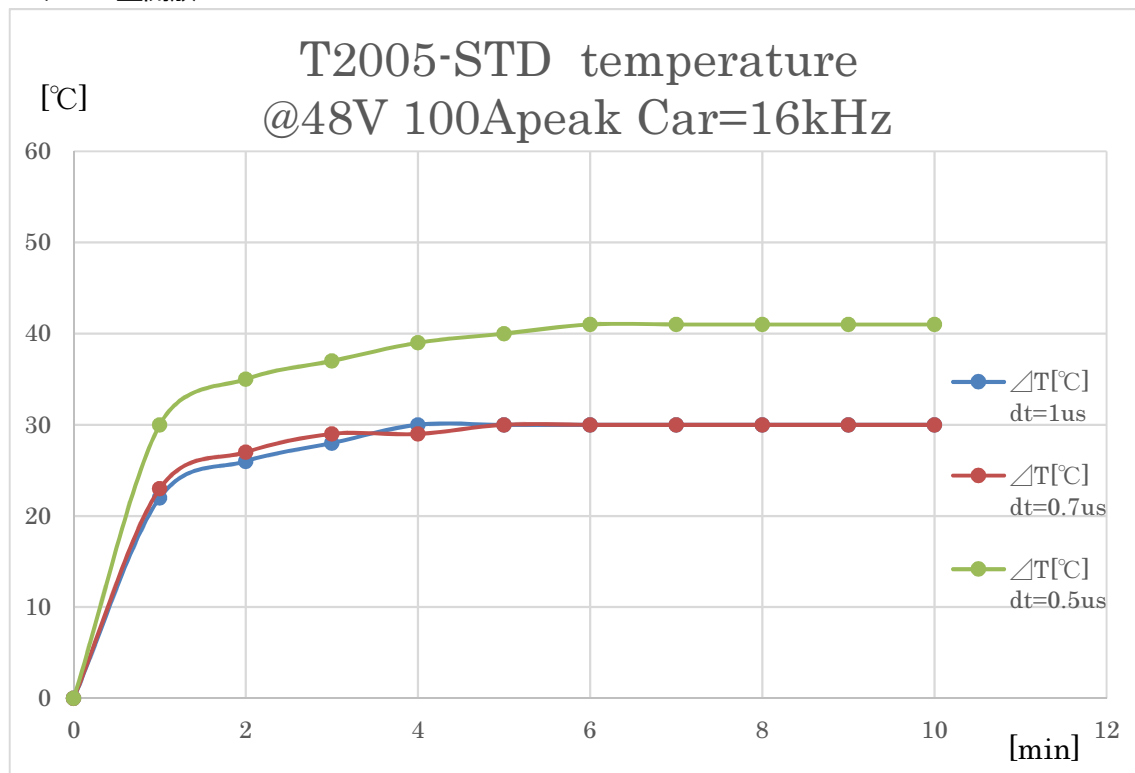
キャリア周波数 16kHz

デッドタイム 0.5us / 0.7us / 1.0us

FAN ON

出力電流 正弦波 100A [0-peak]

ケース蓋開放



6.1. ゲート回路

P05701-A2-017 T2005 Low Voltage Inverter Users Manual V1.03JP

6.2. —DC80 オプション（主回路電圧オプション）

オプションで -DC80 がついているモデルは、耐圧をあげるため、ベースとなるモデルに対して下記の点が異なります。

部品名	標準品	-DC80 オプション品
MOSFET	IRFS7730-7PPBF 75V / Id=269A @25°C 75V / Id=190A @100°C	IPB036N12N3-G 120V / 180A @25°C 120V / 139A @100°C
Boot strap diode	SS16E-TP 60V / 1A	ES1J-JTP 600V / 1A
Capacitor	MAL214699814E3 1000uF/63V	MAL215099913E3 470uF/100V

6.3. —R005 オプション（シャント抵抗値オプション）

オプションで —R005 オプションがついているモデルは、シャント抵抗値がベースとなるモデルに対して変更されています。

部品名	標準品	—R005 オプション品
電流検出抵抗	1mΩ	5mΩ

6.4. 制御電源回路

DC 主回路電圧が 48V を超えるタイプは、オンボードで制御電源を生成することができません。

型式	制御電源回路
T2005 (販売終了)	オンボードで生成
T2005B (販売終了)	オンボードで生成（AL 基板上に別基板を搭載）
T2005B-DC80 (カスタム品)	外部から+15V を給電。
T2005C	オンボードで生成（AL 基板上に別基板を搭載）
T2005C-DC80 (カスタム品)	外部から+15V を給電。
T2005C-DC80-R005 (カスタム品)	外部から+15V を給電。

7. 発注情報

7.1. 型番一覧

本製品は、FAN 電圧、主回路電圧、シャント抵抗などのオプションが存在しています。

型番	主回路電圧	FAN 電圧
現行モデル		
T2005C-V100	48V max	
T2005C-V200	48V max	
T2005C-DC80-V100	80V max	AC FAN 電圧 AC85V~AC110V (Custom 仕様)
T2005C-DC80-V200	80V max	AC FAN 電圧 AC165V~AC230V (Custom 仕様)
T2005C-DC80-VD48	80V max	DC FAN 電圧 48V (Custom 仕様)
T2005C-DC80-VD24	80V max	DC FAN 電圧 24V (Custom 仕様)
T2005C-DC80-R005-V100	80V max	AC FAN 電圧 AC85V~AC110V shunt 5mΩ (Custom 仕様)
旧モデル		
T2005-V100	48V max	AC FAN 電圧 AC85V~AC110V (標準仕様)
T2005-V200	48V max	AC FAN 電圧 AC165V~AC230V (標準仕様)
T2005B-V100	48V max	AC FAN 電圧 AC85V~AC110V (標準仕様)
T2005B-V200	48V max	AC FAN 電圧 AC165V~AC230V (標準仕様)
T2005B-VD48	48V max	DC FAN 電圧 48V (Custom 仕様)
T2005B-VD24	48V max	DC FAN 電圧 24V (Custom 仕様)

Trial series T2005 Low Voltage Inverter Unit Users Manual

発行年月日 2019 年 2 月 28 日 Ver.1.03 JP

発行 デスクトップラボ株式会社
〒192-0362 東京都八王子市松木 3 5 - 7 倉庫付事務所 1 0 1